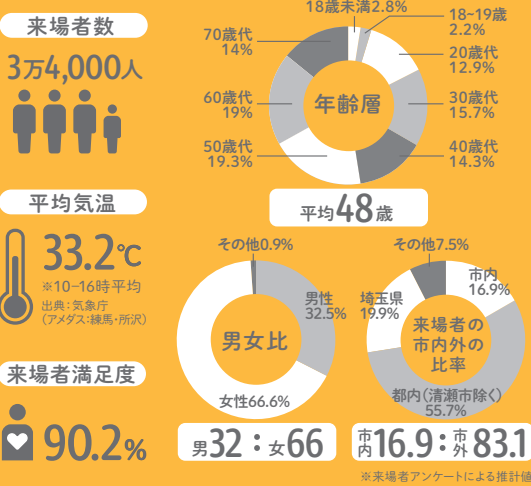


青空と笑顔に包まれた9日間

第15回 清瀬ひまわりフェスティバルをふりかえる

データで見る、ひまわりフェス

来場者数や天気、SNSの動きまで。
この夏の“ひまわり”を、数字で分かりやすく振り返ります。



清瀬駅周辺では、街バルイベント「清瀬ひまわりフェスティバルBAR〜きよ飲み!!〜」を開催。市内のさまざまな飲食店40店舗が参加し、参加者はチケット1冊3,000円(1,000円券×3枚)を購入し、チケット1枚につき1フードと1ドリンクの街バル特別セットメニューを楽しみました。3日間で使い切れなかったチケットは、「あとバル」期間中に金券として利用されたほか、今回は「きよはちサイダー」が参加特典としてプレゼントされました。

ひまわり畑から、まちへにぎわった「きよ飲み」



広がる“ひまわりの輪”
連携と回遊のしかけ



今年は会場だけで終わらない、市内を回遊する楽しみ方を強化。市内11イベントと連携し、共通チラシやパンフレットを配布。まちへ足を運ぶきっかけをつくり、清瀬をまるごと楽しんでもらえるようPR。同時開催は、けやきロードフェスティバル、ナゾトキア、盆踊り大会、きよせの環境・川まつり、ふれあいロード夏まつり、さきおり体験など。ひまわり畑から商店街、イベントへと楽しみが広がり、地域全体で夏のお祭りムードを演出しました。

清瀬の“味”と体験も盛りだくさん。今年は新企画としてとうもろこしのもぎ取り体験が実施。売店には、きよはちを使ったはちみつレモネード、フルーツかき氷、とうもろこしジェラートはじめ地元農産物などが並び、また、新商品として登場した「きよはちサイダー」も話題を呼びました。コミュニティプラザひまわりで開催された「みらいdeマルシェ」や、清瀬駅南口で開催された若手農家による清瀬旬菜花倶楽部のタ市も盛況でした。

地元の魅力も満開！
マルシェ&グルメ



青空と笑顔に包まれた市内のイベントを
プレイバック。イベント連携と晴天で彩られた
今年のひまわりフェスティバルを数字と
エピソードで総括。

清瀬の夏を立体的に伝えます。

晴天続きが後押し
会期を通じ来場好調！

今年の来場者数は昨年を上回る約3万4000人。連日続く猛暑日のなか多くの皆さまにご来場いただきありがとうございました。会場内にはミスト扇風機や散水チューブなどの涼み処を設置。都心からの来場者からは「市街地より風が抜けて涼しい」との声も多く、快適性の向上と晴天続きの好条件が相まって、多くの方に楽しんでいただきました。土日は開場時間を17時まで延長し、来場分散による混雑緩和にもつながりました。

フォトジェニックな一枚が続々
写真コンテスト



会場のひまわりの花は順番に見ごろが巡る“リレー開花”。会期9日間は会場のどこかで満開の花に出会えるよう栽培されています。ひまわりの花が正面を向く東側にはミニ見晴らし台と特別観覧席「ひまわりテラス」を新設し、抜けのいい景色を狙える新スポットに。また、西側には広場を作り、農機を展示。大型トラクターと一緒に撮影する子どもたちの姿も。恒例の写真コンテストの受賞作品は10月に公式サイトやSNSで発表予定です。